

What has science and technology
journalism brought to society?

2015 年 9 月 26 日 (土) 13:00～16:30 (12:30 開場)
早稲田大学小野梓記念講堂 (早稲田キャンパス正門近く)
入場無料

第 1 部

MAJESTy が築いたもの 教員・OBOG からの報告

第 2 部

科学技術ジャーナリズムこれまでの 10 年これからの 10 年
登壇者：

早稲田大学政治経済学術院准教授 田中幹人

毎日新聞科学環境部記者 須田桃子

東京大学大学院理学系研究科・理学部准教授 横山広美

朝日新聞編集委員 上田俊英

早稲田大学政治経済学術院ジャーナリズムコース准教授 田中幹人 (たなかみきひと)

1972 年、静岡県浜松市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。学術博士。早稲田大学政治学研究科「科学ジャーナリスト養成プログラム (MAJESTy)」助手などを経て、2010 年より現職。科学とメディアのあいだで起こる問題について、定量・定性的手法を用いて研究に取り組んでいる。

毎日新聞科学環境部記者 須田桃子 (すだももこ)

1975 年、千葉県生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了 (物理学専攻)。2001 年 4 月毎日新聞社入社。水戸支局を経て 2006 年から東京本社科学環境部記者。生殖補助医療や生命科学、ノーベル賞などを担当。STAP 細胞事件では、各関係者への独自取材をもとにスクープを連発。一連の報道をリードしつづけた。

東京大学大学院理学系研究科・理学部准教授 横山広美 (よこやまひろみ)

専門は現代科学論・科学コミュニケーション分野。2004 年 3 月東京理科大学大学院理工学研究科博士過程満期終了退学、2004 年 9 月東京理科大学大学院理工学研究科にて博士 (理学)。在学中から科学を伝えることを志し執筆を行い、2004 年 10 月から専門を科学コミュニケーション分野にする。東京工業大学研究員、総合研究大学院大学上級研究員を経て、2007 年から現職 (広報室副室長も兼務)

朝日新聞編集委員 上田俊英 (うえだとしひで)

1960 年、愛媛県生まれ。東京大学理学部物理学卒業。1985 年朝日新聞入社。東京本社科学部、アメリカ総局などを経て、東京本社科学医療部長として東日本震災報道にあたる。国内の原子力事故をはじめ、東日本震災など自然災害の取材にも数多く携わってきた。2014 年 1 月より現職。同年春、居住地を東京から福島に移して、福島総局を拠点に地元での取材活動にとりわけ力を入れている。

主催：早稲田大学政治学研究科 / J-School・MAJESTy 同窓会
お問い合わせ：m-sympo@list.waseda.jp (事務局宛)

科学技術ジャーナリズム
これまでの
これからの
10 年